

においを嗅ぐ



キタコブシ

花のにおい – エゾノウワミズザクラ



満開のエゾノウワミズザクラ。姿よりにおいが先に感じられることもしばしばある

りんえんぶ
5~6月、平地の林縁部を歩いていると、姿
すがた
が見えなくても、エゾノウワミズザクラのえも言
われぬいいにおいがしてくることがあります。



エゾノウワミズザクラの花。アイヌ語でキキンニ。
強い香氣で病魔を追い払うという。

葉のにおい – エゾニワトコはちょっと嫌なにおい

エゾニワトコかな? と思ったら葉を指先でもんで、そっとにおいを嗅いでみて下さい。二度と嗅ぎたくない感じる人も多いと思います。

アイヌ語ではソコンニといいますが、「フンをつけている木」の意味だそうです。



エゾニワトコの葉

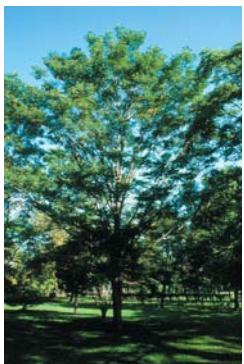


赤い実をつけたエゾニワトコの木。あまり大きくない

実のにおい – キハダの実はミカンのにおい



キハダの実。秋になると熟して黒くなる



キハダ

キハダはミカンの仲間です。
実を取ってにおいを嗅ぐと、
ミカンのような（柑橘系の）香
りがします。

アイヌ語ではキハダの実のこ
とをシケレペ(ぬるぬるした実)
と呼びました。取ったあと乾燥
させて保存し、一年を通じて食
糧や薬として欠かせないものだ
ったといいます。

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編
集 柏書房 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「治水の杜 ガイドブック」北海道開発局帯広開発建設部 2002